

● **全日赤** ●

給食問題対策ニュース

No2017-01

2017.08.17

病院給食は治療食！ 直営原則の徹底と職員処遇の改善を

2017年7月8日(土)から10日(月)にかけて開催された全日赤第72回定期全国大会における給食部門での発言を紹介します。

下請けの実態!病院は『食』に責任を持て!

庄原単組の発言より

給食が委託になり2年3ヵ月が過ぎたが、問題が山積みである。まず食事の遅延、6月は13回、最大で46分。病院栄養士への報告もなく、病院や委託会社の本部にも報告しようとしません。次に食事量が正しくない問題です。献立は日赤の栄養士が作成して、材料の発注から配膳・食器の洗浄は委託会社が行っています。同じグラムの食材を使用するよう指示があっても、一般常食、減塩食、糖尿病食の盛り付け量が倍ほど違うことがよくあります。保育所にアレルギー食を出して小児科受診になったこともあります。また下請け業者の発注ミスによる食材費の増加分200万円を病院に請求してきました。こうした状況を団交でも追及していますが、総務課はクレーム対応をまったくしていません。『食』に対して無責任な姿勢を直し直営復活に向け頑張ります。

食事は元気になる源! 病院食を知ってほしい

長崎単組の発言より

病院給食で遅延はあってはならないことです。食事後の検査や治療に影響するものです。食事は元気になる源です。人は点滴による強制栄養以外では、動植物の命を「食べる」以外、命をつなぐことはできません。「病気を治療する」「病気を予防する」という目的も担っておりとても大切な役割を担っています。

長崎では、依然として調理現場では、正規職員の補充はなく、求人も嘱託・臨時の低い賃金では応募する者もない状況が続いています。そのような状況でも、毎日3食、1回250食をつくり、一般食、軟菜食と高血圧食、糖尿病を始めとする治療食で簡単に分けても20種類、嚥下食や流動食、アレルギー食など細かく分けると1回の食事で40種類あまりにもなります。病院の職員にも食の大切さやどのような環境で提供されているかを知ってほしい。



全国集会のご案内

- 11月19日(日)～20日(月) 全日赤「第22回給食問題対策全国交流集会」(東京)
- 11月25日(土)～26日(日) 医労連「病院給食問題全国交流集会」(福島)

